

特別展 交流の軌跡 — 初期洋風画から輸出漆器まで
2019年10月12日(土)～12月8日(日)

「レパント戦闘図」とその典拠の銅版画
「ザマの戦い」を初めて同時に展示

2018年3月に開館した中之島香雪美術館は、開館記念として村山龍平コレクションを1年間5期にわたって紹介した後は、「明恵の夢と高山寺」「茶席を彩る中国のやきもの」と、村山コレクションの内容に沿った日本・東洋の美術をテーマに展覧会を開催しています。

2019年秋は、香雪美術館が所蔵する初期洋風画の名品「レパント戦闘図・世界地図屏風」(重要文化財)を軸に、日本と西洋が出会い、その交流の精華として生み出された初期洋風画から輸出漆器までを展示し、近世の日欧文化交流の軌跡を美術の世界からたどります。



本展ポスター画像

会 期	2019年10月12日(土)～12月8日(日)
展示替え	前期：10月12日(土)～11月10日(日) 後期：11月12日(火)～12月8日(日)
休 館 日	月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般1,000(800)円、高大生600(400)円、小中生300(150)円 *()内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金 *前売り券は10月11日まで香雪美術館(御影本館)、中之島香雪美術館、 フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
後 援	大阪市、大阪市教育委員会

*全作品66件カラー図版と解説を収録した図録をミュージアムショップで販売。

みどころ 1

「レパント戦闘図・世界地図屏風」(重要文化財・香雪美術館)は、西洋絵画の技法を学んだ日本人が描いた初期洋風画の名品です。ヨーロッパ人による大航海時代の波が生んだ日本と西洋の衝撃的な出会いの結晶といえるでしょう。

「レパント戦闘図」に描かれた美しく武装した貴公子(「ろうまの王」)は、フランドルの画家ストラダーノ(1523-1605)原画の銅版画『古代ローマ皇帝図集』の扉絵をもとにしています。また、象に乗って戦う印象的な場面は、紀元前202年に北アフリカのザマにおいてローマ軍がハンニバル率いるカルタゴ軍を破った「ザマの戦い」を描くコルネリス・コルト(1533?-78)彫版の銅版画が原図となっています。オランダ製の地図などを原図とする「世界地図屏風」もあわせると、本屏風は、初期洋風画のなかでもとりわけ多彩な西洋製銅版画の情報をもとに構成されています。

屏風という伝統的な様式に日本の岩絵具を用い、日本的な金雲表現や金の付箋などが見られる一方、西洋から学んだ陰影法や遠近法を駆使しながら西洋の主題を描き出す本作は、東西の要素が混在しており、その表現は極めて個性的です。

本展では、「レパント戦闘図」をその典拠である銅版画「ザマの戦い」と共に初めて展示し、さらに原図を同じくする「泰西王侯図屏風」(重要文化財・長崎歴史文化博物館)など同時代の初期洋風画や、日本の屏風に影響されて海外で制作された「ビオンボ」など、桃山時代から江戸時代初期に西洋との出会いから生まれた絵画を紹介します。

また、キリスト教の禁止やいわゆる「鎖国」によっていったん途絶えた洋風画は、江戸時代中期以降にオランダとの交流のなかで蘭学の興隆とともに新たな展開を見せます。第2章では、江戸の洋風画家・司馬江漢(1747-1818)、旗本画家として知られる石川大浪(1762-1817)、長崎で活躍した若杉五十八(1759-1805)など、蘭書挿絵に典拠を求めながらも、それぞれの個性のもと制作された江戸時代の洋風画を、江漢の初公開資料3件を含む多彩な作品で紹介します。

日本とヨーロッパが初めて接触して以降、16世紀後半にポルトガルを中心とする南蛮貿易によってヨーロッパに輸出されるようになった輸出漆器は、17世紀中頃、貿易の相手がオランダに変わると、注文主の趣味を反映して形や装飾が変化します。そうした中、西洋製銅版画を典拠とする図を蒔絵や螺鈿で表したプラークやプラケットとよばれる新しいタイプの輸出漆器が登場します。

本展は、日本と西洋が出会い、その交流の精華として生み出された初期洋風画から輸出漆器までを、典拠となった本や銅版画とともに展示し、近世の日欧文化交流の軌跡を美術の世界からたどります。

※展示作品は66件。会期中展示替えがあります。

【前期】10月12日(土)～11月10日(日) 【後期】11月12日(火)～12月8日(日)

展示構成

第1章 西洋との出会い

- 1-1 交流の精華—初期洋風画
- 1-2 世界を巡る—ビオンボとイソップ物語

第2章 江戸時代の洋風画と舶載蘭書

- 2-1 リーディングの流行—江戸も長崎も
- 2-2 舶載蘭書に魅せられて—江漢と大浪

第3章 輸出漆器の世界

みどころ 2

第1章

・初期洋風画とその典拠となった銅版画を初めて同時に展示

「ザマの戦い」(②) — 「レパント戦闘図」(①) の典拠となった銅版画

「聖パテルヌス隠栖図」 — 「洋人奏楽図屏風」(④) の典拠となった銅版画

・ヨーロッパで生まれ、世界中に流布したイソップ物語に関する新知見

「花鳥図屏風」(⑤) — 日本の屏風の影響でできたビオンボに潜むイソップ物語(⑥)



①重要文化財「レパント戦闘図・世界地図図屏風(右隻)」(江戸時代初期、17世紀初期 香雪美術館)



②コルト彫版、ジウリオ・ロマーノ原画、ラファエロ原作「ザマの戦い」(1602年、ローマ刊 香雪美術館)



③重要文化財「レパント戦闘図・世界地図図屏風(左隻)」(江戸時代、17世紀 香雪美術館蔵)



参考図版 コラールト彫版、ストラダノ原画「ローマ皇帝図集」
屏絵(1587-89年頃)ロサンゼルス・カウンティ美術館
Photo©Museum Associates/ LACMA
※出品されません



④重要文化財「洋人奏楽図屏風(右隻)」(桃山~江戸時代、17世紀 MOA美術館) 【10月12日~10月27日】



⑤重要文化財「洋人奏楽図屏風(左隻)」(桃山~江戸時代、17世紀 MOA美術館) 【10月29日~11月10日】



③重要文化財「泰西王侯図屏風(右隻)」(桃山~江戸時代、17世紀 長崎歴史文化博物館) 【前期】



③重要文化財「泰西王侯図屏風(左隻)」(桃山~江戸時代、17世紀 長崎歴史文化博物館) 【後期】



⑤「花鳥図屏風」(中国 マカオ、17~18世紀 九州国立博物館) 【後期】



⑥ヘーラルツ画・刻「動物の素晴らしき楽園」(年刊不明 アムステルダム刊 個人蔵)

第2章

・司馬江漢の 新出作品3件

- 「方三寸画帖貼交屏風」(⑦) — 船載品を模して和製顕微鏡を作成した服部永錫収集の江漢作品
- 「異国風物図押絵貼屏風」(⑧) — 江漢が京都で過ごした晩年に描いた蘭書情報満載の新出屏風
- 「銃を持つ人物」(⑨) — ルイケン父子『人間の職業』(⑩-B)をアレンジした訓戒画

・典拠とともに—新たな知見が満載

- ニューホフ『オランダ東インド会社派遣使節中国紀行』(⑪) — 司馬江漢筆「外国風景図」(⑫)
- ファレンティン『新旧東インド誌』 — 司馬江漢筆「異国風物図押絵貼屏風」(⑧)
- リーディンガー『狩猟家と鷹匠』(⑬) — 若杉五十八筆「西洋人物図」(⑭)

・村山コレクションにも司馬江漢

- 司馬江漢筆「駿州薩陀山富士遠望図」(⑮) 中之島での初公開作品



⑦司馬江漢・石川大浪ほか「方三寸画帖貼交屏風(左隻)」(天明年間、18世紀末 個人蔵)



⑦司馬江漢筆「方三寸画帖貼交屏風(左隻部分)」(天明年間、18世紀末 個人蔵)



⑩-Aluiケン父子著『人間の職業』(1730年、アムステルダム刊 個人蔵)



12 司馬江漢筆「外国風景図」(寛政9年、1797 個人蔵)



8 司馬江漢筆「異国風物図押絵貼屏風(右隻)」(文化9年、1807年頃 個人蔵) 【前期】



8 司馬江漢筆「異国風物図押絵貼屏風(左隻)」(文化9年、1807年頃 個人蔵) 【後期】



11 ニューホフ「オランダ東インド会社派遣使節中国紀行」(1670年刊、アムステルダム刊 京都大学附属図書館)



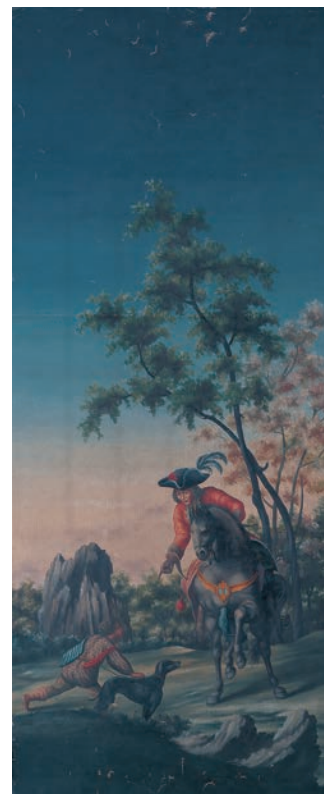
10-Bルイケン父子著「人間の職業」(1730年、アムステルダム刊 個人蔵)



9 司馬江漢筆「銃を持つ人物」(文化10年 1813 個人蔵)



13 リーディング画・刻「狩猟家と鷹匠」(1764年頃、アウクスブルク刊 神戸市立博物館) 【後期】



14 若杉五十八筆「西洋人物図」(江戸時代、18世紀 住友史料館)



15 司馬江漢筆「駿州薩陀山富士遠望図」(享和3年、奥田尚齋識 村山コレクション)

第3章

- ・ 英蘭の戦闘を描いた蒔絵プラークのシリーズを、原図となった銅版画とともに一挙紹介
「ドッガーバンク海戦図蒔絵プラーク」(19)と原図の銅版画(20)
- ・ 西洋人が日本で撮影した写真を元に製作された、細密な描写を見せる螺鈿箱
「長崎風物図螺鈿箱」(18)



18「長崎風物図螺鈿箱」(江戸～明治時代、19世紀 長崎歴史文化博物館)



16「伊勢・源氏物語蒔絵螺鈿合子」(江戸時代、17世紀 南蛮文化館)



17「西洋港図螺鈿風炉先屏風」(江戸時代、19世紀 長崎歴史文化博物館)



20「ドッガーバンク海戦図 危難に陥るオランダ艦バタフィール号」
(1785年、ミッデルブルフ刊 長崎歴史文化博物館)



19「ドッガーバンク海戦図蒔絵プラーク 4」(江戸時代、18世紀 長崎歴史文化博物館)

※展示作品は66件。会期中展示替えがあります。

主な出展作品

【前期】10月12日（土）～11月10日（日）【後期】11月12日（火）～12月8日（日）

No	指 定	作 者	作 品 名	時 代	所 蔵	展 示 期 間
1	重要文化財		せんとうず せかいち ずびうぶ レナント戦闘図・世界地図屏風	江戸時代 17世紀	香雪美術館	
2		コルト彫版 ジュリオ・ロマーノ原画 ラファエッロ原作	ザマの戦い	1602年 ローマ刊	香雪美術館	
参 考 図 版		コラールト彫版 ストラダナーノ原画	『ローマ皇帝図集』扉絵	1587-89年頃	ロサンゼルス・ カウンティ美術館 Photo©Museum Associates/ LACMA	※出品されません
3	重要文化財		たいせいおうこうずびうぶ 泰西王侯図屏風	桃山～江戸時代 17世紀	長崎歴史文化博物館	右隻：前期 左隻：後期
4	重要文化財		ようじんそうがくずびうぶ 洋人奏楽図屏風	桃山～江戸時代 17世紀	MOA美術館	右隻：10/12～10/27 左隻：10/29～11/10
5			からようずびうぶ 花鳥図屏風	中国 マカオ 17～18世紀	九州国立博物館	後期
6		ヘーラルツ 画・刻	『動物の素晴らしき楽園』	刊年不明 アムステルダム刊	個人蔵	
×	7	しほごかん 司馬江漢 いしかわたいろう 石川大浪ほか	ほうさんすん がじょうはりまげびうぶ 方三寸画帖交屏風	天明年間（1781-89） 18世紀末	個人蔵	
8		司馬江漢	いこくふうぶつ おしえぼりびうぶ 異国風物図押絵貼屏風	文化9年（1812）頃	個人蔵	右隻：前期 左隻：後期
×	9	司馬江漢	銃を持つ人物	文化10年（1813）	個人蔵	
×	10 A	レイケン父子著	『人間の職業』	1730年 アムステルダム刊	個人蔵	
×	10 B	レイケン父子著	『人間の職業』	1730年 アムステルダム刊	個人蔵	
11		ニューホフ	『オランダ東インド会社派遣使節中国紀行』	1670年刊 アムステルダム刊	京都大学附属図書館	
12		司馬江漢	がいこくふうけいず 外国風景図	寛政9年（1797）	個人蔵	
13		リーディングー 画・刻	しゆりようか たかじょう 『狩猟家と鷹匠』	1764年頃 アウクスブルク刊	神戸市立博物館	後期
14		わかすぎい そはち 若杉五十八	西洋人物図	江戸時代 18世紀	住友史料館	
15		司馬江漢	せんしゆさつたやまふ じえんぼうず 駿州薩陀山富士遠望図	享和3年（1803） 奥田尚齋識	村山コレクション	
16			いせ げんじものがたりまきえ らでんこうす 伊勢・源氏物語蒔絵螺鈿合子	江戸時代 17世紀	南蛮文化館	
17			せいようこうずらでん ふろさきびうぶ 西洋港図螺鈿風炉先屏風	江戸時代 19世紀	長崎歴史文化博物館	
18			ながさきふうぶつ らでんばこ 長崎風物図螺鈿箱	江戸～明治時代 19世紀	長崎歴史文化博物館	
19			ドッガーバンク海戦図蒔絵プラーク 4	江戸時代 18世紀	長崎歴史文化博物館	
20		ホーヘルヘイデン画 マイス彫版	ドッガーバンク海戦図 危難に陥るオランダ艦バタフィール号	1785年 ミッデルブルフ刊	長崎歴史文化博物館	

※No欄（1～20）は貸出写真番号

※作品画像を使用の際は、所蔵元の記載をお願いします。

※×のついた作品はweb掲載できません。

記念講演会

講師

まつだ きよし

松田 清 さん（京都大学名誉教授、神田外語大学客員教授）

日 時 2019年11月2日（土）14:00～15:30（13:30 受付開始）

テーマ 「典拠を読み解く 一日欧交流史の背景」

会 場 中之島会館（中之島香雪美術館隣）

参加料 1,400円（美術館入館料含む）

定 員 250名



【応募方法】

往復ハガキ（1枚で2名様まで応募可能）に、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信ハガキで参加証を郵送します。

○宛先：〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
中之島香雪美術館 松田 清 講演会係

○締切：10月11日（金）消印有効

○美術館は午前10時開館です。講演会前に展覧会をご覧いただくことも可能です。

ギャラリートーク

◆展覧会場における学芸員による展示解説

開 催 日 2019年10月19日（土）、11月30日（土）

開催時間 15:30～（45分程度）

場 所 中之島香雪美術館展示室内

参 加 料 無料（入館料のみ）

美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、^{むらやまりゅうへい}村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（^{げんなん}玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の^{かわい}河合幾次、和館書院棟の^{ふじい}藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した^{こばやし}小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



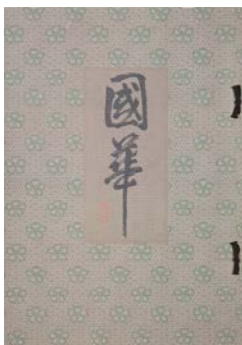
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目に相伴席の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏が設計・監修し、元禄年間創業の安井壱工務店が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。



茶室「中之島玄庵」



茶室「中之島玄庵」内部

PRESS RELEASE

中之島香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「中之島香雪美術館」 担当:日置 (ひおき)

TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考	特に取材したい場所・内容等	

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
中之島香雪美術館 資 料 画 像	ロ ゴ 画 像

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「中之島香雪美術館」 担当:日置(ひおき)
TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階